

登録コード	A4C50200	開講年度	2026				
授業科目	森林生態学演習Ⅰ					担当教員	荒瀬 輝夫
英文授業名	Seminar for Forest EcologyⅠ						
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	金曜・1時限 金曜・2時限 金曜・3時限 金曜・4時限 金曜・5時限	対象学生	農学部2年生
講義室	農学部23番講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2025アカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2. 【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身につけている。					⇔	植生の観察や調査、解析手法に関する基礎知識と技術を身につける。
	【2025年度以降カリキュラム対象】3. 【情報分析・発信力】 論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。					⇔	植生の観察や調査、解析手法に関する基礎知識と技術をもとに、情報を収集・整理して的確に伝える素養を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本演習では、上記の主要テーマに沿って、毎回、さまざまな場所でフィールド実習を行なう。毎回、植物に関することが多かれ少なかれ出てくるので、植物についての興味と分類・同定能力をもっていることが求められる（山岳圏森林・環境共生学コース以外の学生には、「野生植物生態基礎演習」の履修を推奨する）。 動植物のフィールド調査とデータ解析について経験豊富な教員が、実務経験を踏まえて指導します。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス、森林生態学の調査研究の基礎的事項 第2回：植物生態調査1：種数面積曲線の作成（構内農場） 第3回：植物生態調査2：植生図の作成（戸谷川ぞい斜面林） 第4回：植物生態調査3：階層構造と植生断面の調査（構内演習林） 第5回：植物生態調査4：植物群落のコドラート調査（構内演習林） 第6回：植物生態調査5：植物の生活型に関する調査（構内演習林） 第7回：植物社会学的な植生解析：種組成表の作成と表操作 なお、授業の振り返りとして、最終回の授業の最後に授業アンケートを実施する。 また、天候・現地の状況などの事情により、実習場所と順番が変更になる場合があるので、eALPSのアナウンスや掲示をこまめにチェックするようにすること。						
(6)自主学習の指針	より深い理解のために、他の授業で学んだこととの関連を自分なりに考えること。興味あることや分かりにくかったことについて、図書館をフルに活用して調べることも有意義です。 また、実習場所の地図を毎回配布するので活用してほしい（実習時における地図読みの訓練のためと、興味があれば実習後にその場所に行けるようにとの配慮から）。						
(7)成績評価の基準	実習への取り組みとレポート作成において、1）実習の目的と内容を把握し、2）作業・調査等を積極的・適切に行い、3）結果を論理的に分かりやすくレポートにまとめることが求められる。1～3が十分に達成されており、必要に応じて文献やHP等の情報を参照・引用して理解が深められていれば「卓越している」、1～3が充分達成されていれば「かなり上にある」、概ね達成されていれば「やや上にある」、基本的な項目が達成されていれば「水準に達している」とする。 秀：授業の達成目標水準から見て卓越している。（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある。（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある。（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある。（60～69点） 不可：授業の達成目標水準にない。（59点以下）						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：実習予定（日付・実習場所・テーマ）は、初回ガイダンス時に概説するだけでなく、予定表として掲示板に掲示します。授業計画に記載されている実習場所やテーマについての事前学習を2時間程度行ってください。 事後学習：配布資料や参考書・HPなどをもとにした事後学習を2時間程度行ってください。						
(9)テストやレポートの予定	毎回レポート作成。各回とも、基本的には、現地に移動したあと野外実習を実施し、教室に戻ってレポートを作成・提出する。 ただし、現地への往復や野外実習に時間がかかる場合や、文献・インターネット等で調べるような内容を含む場合に、レポートを次週までの宿題とすることがある。						
(10)成績評価の方法	・毎回のレポート（出席・提出回数とレポートの質）、および期末レポートで評価（期末試験は行なわない）。 ・各人が実践する演習科目なので、周囲の雰囲気を害する行為（私語、携帯電話、内職など）、実習に支障をきたすような迷惑行為（遅刻、指示に従わないなど）等は減点対象となる。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	・授業時間内と授業後（教室にいる間）は、質問があれば対応する。 ・授業日以外であれば研究室（森林棟3階）まで質問に来てもらえれば対応する。 メール上のやりとりでもよいが、フィールドの内容が多いので直接来てもらったほうが理解しやすい。 E-mail: tearase(at)shinshu-u.ac.jp						
(12)履修上の注意	・野外ではどうしても教員の声が届きにくいので、前のほうで聞くこと。 ・聞き漏らしたことがあれば、教員ないし周囲の学生に質問して、その場で確認すること（自ら聞き、						

(12)履修上の注意	周囲の状況を見る努力をして下さい：指示されたことをせず、実習が終わってから「聞いていない」「聞こえるように説明しなかった教員が悪い」のようなこと言うのはマナー違反）。 ・自分の身は自分で守ること（実習にふさわしい靴と服装、帽子着用、雨具の準備、水分補給など：ガイダンス時に説明します）。野外での実習を中心とするので、服装・装備が不適切と判断された場合、実習への参加を認めないこともありうる。 内容に応じて、実習を個人で行なう場合と小グループで行なう場合がある。後者の場合、レポート作成のためにグループ内で情報を共有する必要がある。 ・やむをえない事情で欠席するときは、できるかぎり事前に申し出ること。
【教科書】	なし（毎回プリント配布）。
【参考書】	図鑑類： 「葉でわかる樹木：625種の検索」「冬芽でわかる落葉樹：カラー図鑑」馬場多久男 信濃毎日新聞社 他に、ポケットサイズの図鑑類などを持参すると便利。 （ただし、図書館で借りた図鑑類を実習時に持ち歩くのは厳禁です！） 森林生態関係： 「森林の生態」菊沢喜八郎 共立出版 「森林生態学」依田恭二 築地書館